

# スマートエスイー

Smart SE: Smart Systems and Services innovative professional Education program

スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベティブ人材育成



Smart SE

<https://smartse.jp>

# 超スマート社会の時代を 国際的にリードする イノベーティブ人材の育成



## 代表者メッセージ

鷲崎 弘宜 早稲田大学理工学術院総合研究所最先端 ICT 基盤研究所・教授

日本の企業は要素技術に優れています。しかし領域や利害関係を超えて全体を俯瞰して組み合わせ、ビジネスへと結びつけることに後れをとっています。本格的なスマート社会を切り拓くにあたり、今こそ産学連携による実践的な学び直しにより国際競争力を強化するときです。スマートエスイーは世界に類を見ない大規模な産学連携による、いわば IoT & AI ビジネススクールを目指します。体系的カリキュラムにより広く領域をカバーし、徹底的なケーススタディにより領域を超えた組み合わせや、技術とビジネスの接続を実践します。これにより理論と技術に裏打ちされた形でイノベーションを起こせる人材を育成し、その能力を保証します。



## スマートエスイープログラムの特長

本教育プログラムは、領域を超えた循環と総合的アプローチを特長としています。通信・物理、情報処理、アプリケーション、ビジネスの各領域を有機的につなぐ総合実践を通じて、新たな価値創造を推進するフルスタックかつビジネス×技術を扱う人材を育成します。

スマートエスイープログラムは、文部科学省による中間評価で質の高い教育や受講環境が評価され、最高ランクのS評価を獲得しました。

### 教育実践の概要

大学が得意な理論と企業の豊富なケーススタディを用いた実践的教育を参照モデルにより整理することで、ビジネスからセンサまでの全領域の体系的な学びを実現します。

共通例題の利用、システム&デザイン思考科目、プロジェクトベース学習、修了制作を通じ、領域を深めつつ技術群を組み合わせで価値を創造する実践力を養成します。

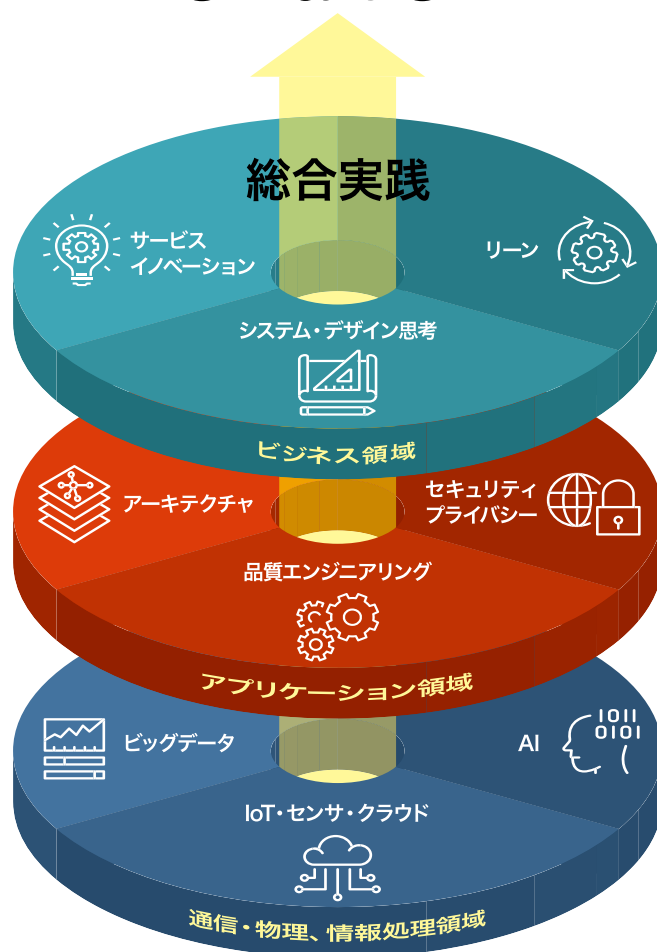
第16回 日本e-Learning大賞 IT人材育成部門賞 受賞  
第4回 IMS Japan賞 特別賞 受賞



スマートエスイーは職業実践力育成プログラム (BP) 認定プログラムおよび、専門実践教育訓練の指定講座です。



## Smart SE



超スマート社会の実現 (Society 5.0) には、IoT・CPS・クラウドに代表されるシステム・プラットフォーム、ビッグデータ、人工知能の技術群を活用できることはもちろんのこと、ビジネス・社会ニーズに応じて必要なモノとサービスをきめ細やかに適応的かつ効率的に市場に提供できることが必要です。このようなスマートなシステム&サービス\*の開発運用を通じて、価値創造を国際的にリード可能な人材育成を目指します。

\*スマートなシステム&サービス = ニーズに応じきめ細やかに必要なモノ・サービスを適応・効率的に提供する仕組み

## 目指す人材像

### スマートIoTシステム&サービスプロフェッショナル

AI・IoT・ビッグデータの各技術を深めたうえで領域を超えた価値創造をグローバルにリード可能な人材

=

フルスタック

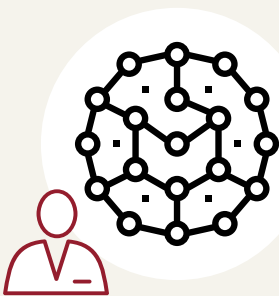
+

専門性

- 自分の専門は伸ばしつつ、各領域の主要知識や技術にも明るい「フルスタック+専門性」のある人材育成を目指しています。お互いが他の領域にも通じることで、ニーズに応じた必要なモノ・サービスを適応・効率的に、かつきめ細やかに提供する仕組みを構築できると考えます。
- 正規修了のカリキュラムを受講することで、MCPC IoTシステム技術検定 上級程度の知識を身に付けることができます。

目指す人材像

1

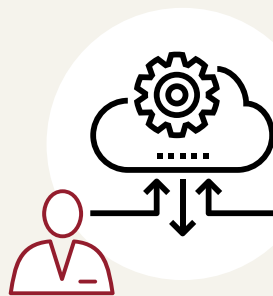


システムオブシステムズ  
・品質アーキテクト

システム群から全体を構成、セキュリティを含む多面的品質評価、ビッグデータ分析を通じ改善

目指す人材像

2



組 込 み・IoT  
プロフェッショナル

ビジネスやイノベーションを見据え、センサ群とクラウドを組み合わせた IoTシステムを設計構築

目指す人材像

3



クラウド・ビジネス  
イノベーター

ビッグデータに対し人工知能を適用し未来を予測し、クラウド上での適応的なサービス提供や、ビジネスモデルのデザイン&検証をリード

# カリキュラム

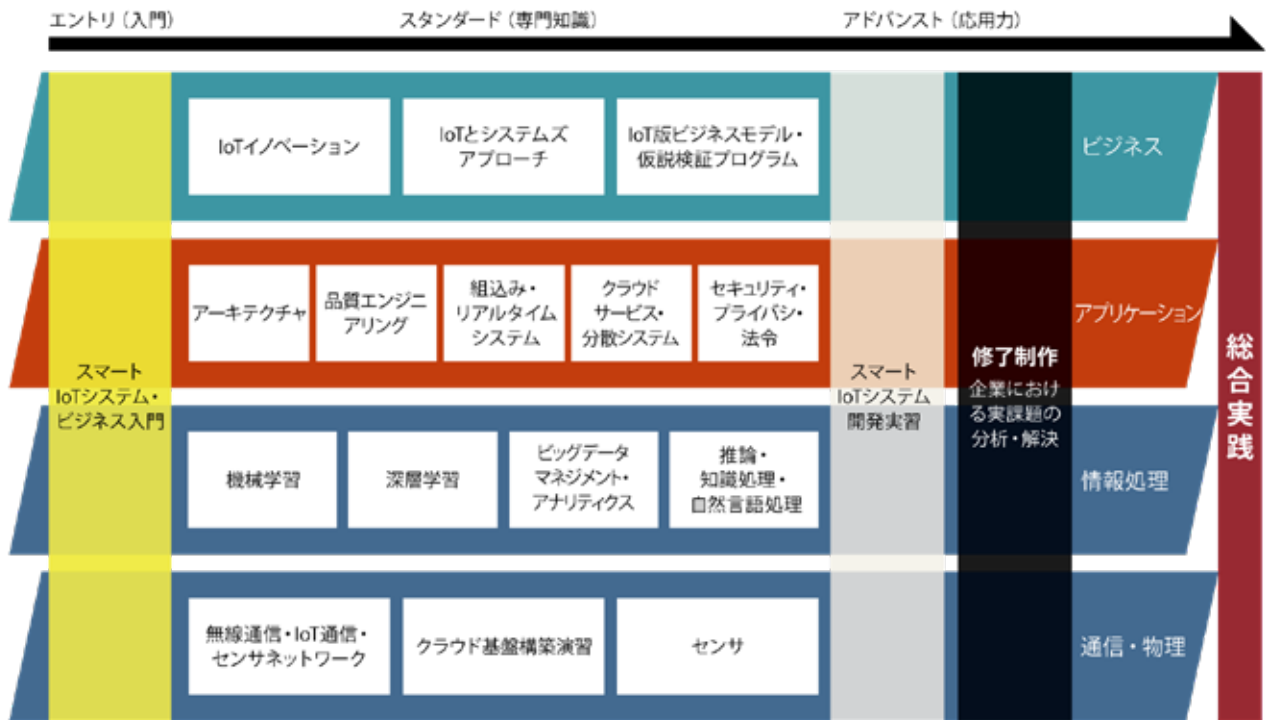
各講義は、産学連携の講師陣にて構成されています。理論とケーススタディによる実践とを組み合わせられた講義が提供されます。

正規履修  
(履修証明証を発行いたします)

- 18科目中必修科目を含む10科目120時間(受講期間:約6か月)が履修修了要件です。
- 各科目は深度に応じ、入門的な内容をつかう「エントリー」、情報系大学院レベルの専門知識を学ぶ「スタンダード」、実問題への応用力を養う「アドバンス」の3段階があり、PBLなど実践的な教育を行います。
- 企業における実課題の解決を想定した「修了制作」を必修とします。修了制作はマンツーマンで指導します。
- 修了後、モバイルコンピューティング推進コンソーシアムが実施する「IoTシステム技術検定上級」試験の受験資格が付与されます。
- 専門実践教育訓練給付金の対象講座です。

科目スポット履修  
(コンソーシアム会員のみ)

- いくつかの科目を選択して受講します。



教育科目プログラム群の体系

## 主な講師紹介

<b>全体統括</b> 全体統括・コーディネーション・運用とりまとめ・プログラム改訂	 鷲崎 弘宜 早稲田大学	 本位田 真一 早稲田大学	 深澤 良彰 早稲田大学		
<b>領域</b>	総合実践	ビジネス	アプリケーション	情報処理	通信・物理
<b>領域リーダー</b>	 吉岡 信和 早稲田大学	 内平 直志 北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST)	 鄭 顕志 早稲田大学	 上田 和紀 早稲田大学	 山名 早人 早稲田大学

# ビジネス領域

## スマートIoTシステム・ビジネス入門

8コマ12時間

鷺崎 弘宜 (早稲田大学)、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム ほか

スマート IoT システム初学者のためのエントリ科目であり、スマート IoT システムの技術とビジネスデザインの概要を、事例を通じて学ぶ。

**到達目標**

IoT サービスシステムの概要とその具体事例の理解。IoT サービスシステムを支える技術と活用方法の概要の理解。

## IoT版ビジネスモデル仮説検証プログラム

8コマ12時間

堤 孝志 (Learning Entrepreneur's Lab、早稲田大学)

IoT システム&サービスの特有の課題を踏まえて研究成果やアイデアを基にビジネスモデルを構築し仮説検証を繰り返しながらブラッシュアップすることで IoT 事業を立ち上げる手法を実践的に学ぶ。

**到達目標**

ビジネスモデルキャンパス、リーンスタートアップ、顧客開発モデルなどのビジネスモデルの構築のための理論の理解。IoT システム&サービスの特性を踏まえながら IoT 関連事業のビジネスモデルの設計および顧客インタビューによる価値検証を実践する技能の習得。

## IoTイノベーション

8コマ12時間

内平 直志 (北陸先端科学技術大学院大学)、位野木 万里 (工学院大学)

IoT を活用したサービスビジネスのイノベーションのための機会と困難を体系的に理解し、IoT サービスビジネスをデザインするための具体的な手法を学ぶ。

**到達目標**

IoT を活用したサービスビジネスのイノベーションのための機会と困難さの理解。IoT を活用したサービスビジネスのイノベーションのためのマネジメント手法の概要の理解。デザイン思考の要求工学の概要と手法の理解。IoT を活用したサービスビジネスのイノベーションをデザインする手法の理解。これらの手法の実務での活用。

## IoTとシステムズアプローチ

8コマ12時間

新谷 勝利 (早稲田大学)、高井 利憲 (チェンジビジョン)、安藤 秀樹

IoT システムを見据えたシステムズアプローチの概念と手法を学ぶ。

**到達目標**

IoT システムを見据えたシステムズアプローチの考え方と枠組みの理解。ビジネス分析に必要な知識体系としての BABOC (R) の理解。各種のシステムモデリングの手法 (SysML、GQM+Strategies、GSN など) の IoT システムへの適用。

## アプリケーション領域

### アーキテクチャ

8コマ12時間

鄭 顕志 (早稲田大学)、久保秋 真 (チェンジビジョン)

さまざまな品質要求を満たす IoT システムのアプリケーションアーキテクチャを得るための設計手法を学ぶ。

#### 到達目標

アーキテクチャの概念と IoT システムに関連した代表的なアーキテクチャパターン / 参照アーキテクチャの理解。アーキテクチャ設計、評価手法の習得。モデル駆動開発の基本知識と IoT システムにおける活用方法の理解。

### 品質エンジニアリング

8コマ12時間

早水 公二 (フォーマルテック)、本田 澄 (大阪工業大学)

IoT・AI ベースシステムの検証手法や、品質管理手法を学ぶ。

#### 到達目標

モデル検査の基本知識と IoT システムにおける活用方法の理解。IoT・AI ベースシステムを対象とした品質エンジニアリングの理解。機械学習システムを対象としたテスト技術の理解。

### セキュリティ・プライバシー・法令

8コマ12時間

森 達哉 (早稲田大学)、内田 真人 (早稲田大学)、松崎 和賢 (中央大学)、竹之内 隆夫 (デジタルガレージ)、井口 誠 (Kii)

IoT 時代のセキュリティ、プライバシー、法令の基礎知識と関連する技術について学ぶ。

#### 到達目標

プライバシー保護技術の必要性の理解。主要なプライバシー保護技術の詳細と適用方法の理解。情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の基礎の理解。パーソナルデータの適切な取扱いに必要な事項の理解。情報セキュリティの基礎の理解。IoT に固有なセキュリティ課題と脅威、及び対策技術の理解。IoT システムの脅威分析の前提知識や大枠の理解。IoT システムにかかわる検証や認証の理解。

### 組み込み・リアルタイムシステム

8コマ12時間

戸川 望 (早稲田大学)、中島 達夫 (早稲田大学)、エンベックスエデュケーション

IoT デバイスなどの分散組み込みシステムを構築するための基礎技術を学ぶ。

#### 到達目標

センサとの接続を含む組み込みシステム全体の理解。リアルタイムシステムの理解。高信頼分散システムの理解。Internet of Things (IoT) の理解。

## 講座紹介

### クラウドサービス・分散システム

8コマ12時間

高橋 竜一 (茨城大学)、中島 倫明 (レッドハット)、佐々木 健太郎 (楽天)

クラウドコンピューティング基盤上にスケーラブルな分散システムを構築する技術について学ぶ。

#### 到達目標

クラウドシステムの特徴を活かしたシステム設計（スケールアウトなど）の理解。分散システムを構築・運用するためのクラウド環境の自動化技術の理解。

## 講座紹介

# 通信・物理領域

### クラウド基盤構築演習

8コマ12時間

中島 倫明 (レッドハット)、佐々木 健太郎 (楽天)

IoTやAIなどの先進分野で活用が進むクラウドコンピューティング基盤の概念と内部構造を理解し、その実現方法を習得する。

#### 到達目標

クラウドコンピューティング基盤の理解とIoTやAIシステムへの活用。基盤の特性と構造の理解と、システムに合わせたクラウドの設計の技能の習得。オープンソースであるクラウド基盤ソフトウェアのOpenStackをベースとした仕組みや内部構造、管理の概念の理解。

### 無線通信・IoT通信・センサネットワーク

8コマ12時間

甲藤 二郎 (早稲田大学)、金井 謙治 (早稲田大学)、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム

各種ネットワーク通信の仕組み、特性および構築技術を習得する。

#### 到達目標

無線通信・IoT通信の仕組みおよび特性の理解。無線センサネットワークを構築し運用を開始できる技能の習得。

### センサ

8コマ12時間

木村 啓二 (早稲田大学)、次世代センサ協議会

センサの基礎と信号処理を習得する。

#### 到達目標

センサの基本構造・動作原理および特性の理解。実際のセンサの信号処理を実現できる技能の習得。チームの中で自分の役割を認識し、チームとして課題に対応できる技能の習得。

講師・科目は変更になる場合があります。

## 情報処理領域

### ビッグデータマネジメント・アナリティクス

8コマ12時間

山名 早人 (早稲田大学)、清水 佳奈 (早稲田大学)、石井 一夫 (公立諏訪東京理科大学) ほか

アナリティクス・意思決定のためのIoT等ビッグデータ分析および統計解析を通じた活用について学ぶ。

到達目標

IoT・ビッグデータの特性および統計解析の技法の理解。統計解析を通じた具体的なビッグデータを分析活用する技術の習得。

### 推論・知識処理・自然言語処理

8コマ12時間

上田 和紀 (早稲田大学)、菅原 俊治 (早稲田大学)、林 良彦 (早稲田大学)、清水 徹 (ヤフー)

記号的知識表現と推論の技術、知的なソフトウェアの相互インタラクション、および日本語・英語テキストを主な対象とした自然言語処理について学ぶ。

到達目標

記号レベルの人工知能技術を以下の諸側面から学ぶ。記号的知識の表現技術とその操作すなわち探索・推論技法の習得。マルチエージェントによる実問題のモデル化、相互作用の理解、協調による知識処理の習得。自然言語処理の基本技術・先端的技法の理解。具体的なテキストを対象とした各種の情報抽出・変換を行うための手段の習得。

### 機械学習

8コマ12時間

坂本 一憲 (早稲田大学)、小川 哲司 (早稲田大学)、奥野 拓也 (NTT テクノクロス)

機械学習の理論を把握した上でツールを用いた教師あり・教師なし・半教師あり・強化学習について、Python についての講義及びツールの演習を行いつつ実践上の留意点を含めて習得する。

到達目標

Python の理解、機械学習の理論および技法の理解。ツールを用いて機械学習を実問題的に適用し知識や知見を得る技能の習得。

### 深層学習

8コマ12時間

シモセラ・エドガー (早稲田大学)、中井 悦司 (グーグル)、ほか

深層学習の理論を把握したうえで畳み込みニューラルネットワークを用いた画像解析等について、演習を行いつつ実践上の留意点を含めて習得する。

到達目標

深層学習の理論および技法の理解。ツールを用いて深層学習を実問題的に適用し知識や知見を得る技能の習得。

講師・科目は変更になる場合があります。



## 総合実践

## スマートIoTシステム開発実習

8コマ12時間

土肥 拓生 (デジタルアスリート) ほか

開発運用のプロセスとしてアジャイル・リーン開発および DevOps を学習した上で、実践的・先端的な各種のソフトウェア、ハードウェア、通信・IoT・クラウド環境ならびに人工知能ツールを用いた具体的なビジネス事例に対するスマート IoT システム&サービスプロトタイピングのチーム実習 (PBL: Project Based Learning) を行う。

## 到達目標

IoT サービスのプロトタイプを開発できる技能の習得。サービスに合わせてハードウェア・ソフトウェア・クラウド環境をカスタマイズする技能の習得。人工知能・機械学習ツールを使って IoT サービスを構築・分析する技能の習得。アジャイル・リーン開発によりシステム&サービスを開発し、DevOps を実践する技能の習得。

## 修了制作

8コマ12時間

吉岡 信和 (早稲田大学)、代表校・連携校の各教員、連携企業講師ほか

ある課題や環境を対象に、大学・研究所教員 (および連携企業) とのマンツーマン個別指導体制を通じたイノベーション・価値創造のためのシステム&サービス制作および研究を実施する。

## 到達目標

IoT システムに関する技術・事例の調査研究。イノベーションを生む可能性のあるスマートクラウド・IoT システムの企画・開発。

講師・科目は変更になる場合があります。

## 講義形式

講義は基本的にはオンラインで行いますが、実機を使う演習や一部のグループワークを対面での講義も行います。大学で講義を受けることで、受講生同士や講師との交流の機会を作っています。



グループワークや実習を多く取り入れています。

## 修了制作

修了制作は、業務などで直面している実問題を持ち込み (連携組織などが提示する一般の課題やデモデータを用いることも可能)、マンツーマン指導で制作・研究を行い、学んださまざまな手法・ツールを総合的に活用できるようにしていきます。扱う問題の種類に応じて「事例調査」「適用実験」「実証評価」などでも可能です。

修了制作をするに当たって、受講者のテーマに合わせて指導教員とのマッチングを図ります。指導は基本的にオンラインでの指導となります。指導教員は、スマートエスイーコンソーシアムの連携大学に所属しています。扱う問題によっては希望次第でチームにより取り組む場合もあります。

## スマートエスイー提供研修

AWS の Deep Racer を用いて、強化学習アルゴリズム活用の実践的研修を行っています。本研修はチームで行い、DeepRacer のゴールタイムを競います。

※本研修は AWS (Amazon Web Service) 様、DNP (Dainippon Printing) 様のご協力のもと実施しております。



強化学習前後の走行の様子をご覧ください



## メディアでの紹介



政府広報番組「宇賀なつみのそこ教えて！ 社会人の学び・リカレント教育」で取り上げられました（放送日 2021年1月8日（金））。

仕事をしながら学び直せる最先端技術講座として紹介されました。今の時代はあらゆるビジネス、組織・社会で最新のデジタル技術を活用して変革していくこと（デジタルトランスフォーメーション）が求められています。それを加速していくには最新のデジタル技術を学べるよう教育プログラムの内容を最新に改定しながら進めています。学びの集大成として受講生の持ち込んだ課題を、大学や企業側の講師がマンツーマン指導し課題解決を進めます。ビジネスや社会の価値に結びつけて、イノベーションをリードできる人材を育成します。番組では、修了生の修了制作課題の紹介、修了生の声も紹介されました。

### 新聞・TV・雑誌

日本経済新聞 電子版	石川県、AI人材育成へ研修開講 早大・コマツと連携	2020年10月20日
NNN ニュース	IoT など技術者育成 金沢でスクール開講	2020年 9月14日
日本経済新聞	「IT 活用！ 遅すぎた夜明け 大学改革の突破口に」	2020年 7月 6日
CodeZin	スマートエスイー、セミナー「ポスト・コロナ時代のソフトウェアエンジニアリングを考える」を全6回で開催	2020年 6月16日

他多数

## 受講生の声

### スマートエスイープログラムの特長は何ですか？

半年間の期間でアウトプットがきちんとないと修了できないことのハードルはプラスだと思っており、勤めるに値する。ただの一過性ではないところもよい。他の類似の研修でフルスタックで扱っているものはほかに見つけられていない。(40代フリーランス)

とても大変だけれど、すごく価値があるプログラムであると真っ先に言える。技術全般を偏りがなく学べる。特定のベンダーに依存しておらず、現実から乖離している研究の話だけでなく、広範囲で学べる。ビジネス的なところも含めて一通貫であるところ。演習が充実しているところがよい。(30代ITコンサルタント)

### スマートエスイーを受講してどう変わりましたか？

実担当ではなく、どの課にも所属せず、課を横断的にみる役割を担うようになった。最近は企画にも踏み込んで、スマートエスイーで受けた科目を全部実行しているようだ。特に生かしているのは、AIやIoTはもちろん、企画に向けてのデザイン思考や要求をまとめて行くアプローチなど。従来の社の考え方との違いを提示したり、運用戦略を自分の言葉で突っ込んでいえるようになったのは、スマートエスイーを受講したおかげと最近思っている。(30代電機メーカー)

どのような領域があるかというマップが自分の中で出来上がり、これとあれを組み合わせるとこうなりそうだという道筋がつけ

られるようになった。スマートエスイーで総合的に学んで知識を習得できたのが非常に良かったと思う。(30代情報システム)

DX関連の仕事をするうえで必要な知識や経験とか能力、スキルを得られたと思っているので、いい作用は間違いなくもたらしている。(30代情報システム)

### 受講を迷っている人へ。あと一押しのおススメポイント

自分の専門ではないところにもチャレンジすることで、新たな視野が広がると思う。専門分野を深めるプラス、専門外の分野も併せて考えて、専門分野とのつながりを俯瞰してみるといいのはお勧めしたい。(30代電機メーカー)

受講料は一見高額に見えるが、中身の充実さ、費用対効果で見ると非常に安価な価格設定になっている。(30代電機メーカー)

自身で起業した会社のビジネスを考えるときに、スマートエスイーで学んだビジネス系の知識・スキルが役に立っているし、コロナ禍で在宅勤務に切り替えるとき、ネットワークやセキュリティの担保をどうするかを考え構築するときに、スマートエスイーで学んだことが役に立つなど、即戦力になる技術も学べた。(30代ITコンサルタント)

横のつながりができたこと。所属先は似たような人が集まらざるを得ないが、世の中は広いので、別の観点にいる人、様々な年齢層の人と横のつながりができるのは良い。(全員)

## スマートエスイーコンソーシアムについて

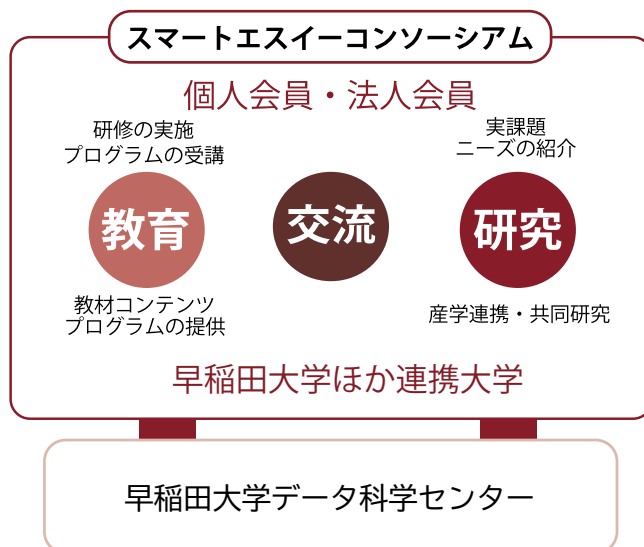
超スマート社会の実現に必要な知識・技術を真に活かし、社会実装を達成できる人材となるためには、高いビジョンを共有し切磋琢磨できる仲間と出会う機会が不可欠です。

スマートエスイーコンソーシアムでは、交流会・公開シンポジウム・セミナー・勉強会等を開催し、連携大学や企業との交流の場をご用意いたします。そこで生まれる新たなご縁、驚きの化学変化、刺激的な価値観、わくわくするようなアイデアは全会員の大きな財産となり、新時代の産学連携を発展させる突破口になると考えます。また、スマートエスイー講座の科目スポット履修や研究交流フォーラムの開催等、より高度な連携と教育・研究の機会をご提供いたします。

システム開発・運用を通じて社会の課題を解決したい、自分たちの手で新たな価値を生み出したい、産学連携を牽引するリーダーを目指したいといった、変革の時代を切り拓く意欲と情熱をお持ちの皆さまを、当コンソーシアムは歓迎いたします。入会費は無料、特別コンテンツの活用は有料です。詳しくは HP をご参照ください。[\(https://smartse.jp/consortium/\)](https://smartse.jp/consortium/)

### 主な活動実績

- 2019年 NEC アーキテクチャオンサイト研修
- 2020年 調査研究ワーキンググループ「DX時代のビジネス戦略・要求調査研究WG」全8回
- 2020年～スマートエスイー IoT/AI 石川スクール(2024年まで実施予定) 経営者セミナー・プログラミング・IoT/AI 研修
- 2021年 調査研究ワーキンググループ「ゴール指向に基づくDX推進へのアプローチ調査研究」全8回
- 2021年 FSA 技術委員会スマート IoT システムビジネス入門研修



## データ科学センターについて

本センターは、理工系・人文社会科学系の専門領域とデータ科学との知見の融合を図るプラットフォームを提供し、総合知の創造とグローバル社会の問題解決を担う人材の育成及び、大学の研究力向上を目的とし、2017年12月に設置されました。

本センターは、実践的な教育と最先端の研究に資する取り組みを産官学連携によって促進することを目的とし、データ科学(データサイエンス)

分野の研究・教育のためのコンソーシアムを2019年4月に設立し、スマートエスイー事業と連携しながら各企業との広範な事業連携を加速させます。また、国内のみならず、海外の大学や企業ともネットワークを形成し、世界の先進的モデルの拠点として、実践的な教育と研究の普及に努め、グローバルなデータ駆動型社会の形成を目指しています。

## 文部科学省 enPiT-Pro

スマートエスイーは、文部科学省が2017年から5年間にわたって実施した「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」enPiT-Proの補助を受け、2018年にプログラムを開講しました。enPiT-Pro事業は、スマートエスイー以外にも4つの拠点が採択されており、合同でシンポジウムを開催するなど他拠点とも連携しながら高度情報技術人材の輩出に尽力してきました。

スマートエスイーは2018年の開講以来、毎年ほぼ定員30名一杯の受講生を迎え入れ、多くの修了生を輩出いたしました。その教育の質の高さや、JMOOCを中心としたe-learning講座の提供、地域展開など積極的な教育活動が評価され、中間評価でS評価を頂戴しました。

補助事業としての取り組みは2021年で終了しましたが、教育プログラムの質、修了後の受講生の活躍、地域展開による効果の波及など、様々な点から評価を得て、2022年度からは早稲田大学のリカレント教育の一つとして事業を継続しています。

また、スマートエスイーはコンソーシアムを形成し、茨城大学/群馬大学/東京学芸大学/東京工業大学/大阪大学/九州大学/北陸先端科学技術大学院大学/奈良先端科学技術大学院大学/東京工科大学/東洋大学/鶴見大学/国立情報学研究所の12大学・機関と協力、連携して修了制作指導にあたっています。

## スマートエスイー連携大学一覧

早稲田大学／茨城大学／群馬大学／東京学芸大学／東京工業大学  
／大阪大学／九州大学／北陸先端科学技術大学院大学／奈良先端  
科学技術大学院大学／東京工科大学／東洋大学／鶴見大学／国立  
情報学研究所

## 問い合わせ先

### 早稲田大学スマートエスイー事務局

E-mail: [smartse@list.waseda.jp](mailto:smartse@list.waseda.jp)

TEL: 03-5286-3270

〒169 - 8555 東京都新宿区大久保 3-4-1

早稲田大学理工学術院 55号館 5棟 2階  
最先端 ICT 基盤研究所内